

# 令和4年度調査研究委員会 実践報告シート

学校名（ 燕沢小学校 ） 名前（ 中堤織英 ）

〔実践報告1〕「フレッシュ先生校内研修」において工夫した取組

## <方針>

昨年度の各学校の実践の中で、課題として「時間の確保」と「フレッシュ先生の困り感やニーズに寄り添った研修の設定」が挙げられていた。

そこで本実践では、研修の形態と持ち方に主眼を置いて取り組むことにした。時間の確保については、休憩時間にフリー参加の研修を設定することで解決を図っている。また、フレッシュ先生に予め「課題だと感じていること」を聞き、それを基にした研修を設定してはどうかと考えた。

## <本校の取組>

夏休みに、フレッシュ先生1～4年次を対象に「教えてほしいこと」や「今課題だと感じていること」を自由に付箋紙に書いて出し合った。学習指導に関することや児童・保護者対応など様々課題が集まったが、それについて確認し合う中で、次のような意見が出された。

- ・研修の時間を取ってほしいというよりは、他の先生方と気軽に話せる時間がほしい。
- ・先生方の経験談を聞いて吸収したい。

その意見を踏まえて、本校では参加フリー型ミニ研修会「ツバトーク」を企画した。フレッシュ先生が感じたことや困り感を基に話題を提供してもらい、その話題について集まった先生方で話し合ったり、経験談を聞いたりする主旨である。1か月に1～2回、次のようなテーマを設定して開催した。

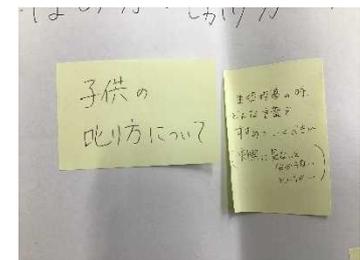
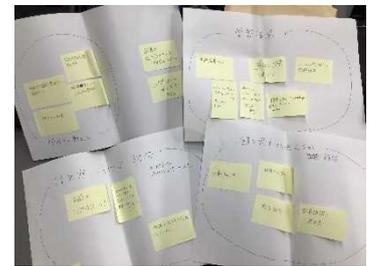
9月 「夏休み中に考えた、やってみたいこと」

10月 「子供のほめ方・しかり方」

「対応が難しい児童・保護者との向き合い方」

## <研修の具体>

10月の「ツバトーク」では、まずフレ研1年次の教諭から「なかなか授業に集中できない児童にどのような声を掛けたらよいか。強い言葉を使わずに指導したい。」とクラスの事例を基に話題提供があった。それに対して、先輩の教員から「対象児の近くに行き、その子にだけ聞こえるように注意しては。」「座りっぱなしではなく、45分の中で動く時間を取ってみたら。」「まずは子供とのやり取りを楽しむことを考えよう。」などと、様々な助言があった。お茶を飲んだり雑談を交えたりしながら、温かい時間を過ごすことができた。1年次教諭からは「経験豊かな先生方のお話はためになった。学ばせていただけてありがたい。」と感想があり、他の参加者からも「普段ゆっくり話ができないので、指導の仕方について聞いて勉強になった。」、「すぐに実践できそうなことだったので明日からやってみたい。」などの感想が



記入された付箋紙



10月の「ツバトーク」の様子

出され、お互いに学び合う場となったことが伺えた。  
また、下記の研修も実施した。

11月 「学習発表会の指導ってどうやるの？」

「学習発表会を褒め合う会」

12月 「聞いてみたい学年主任術」

「保護者面談のコツ」



9月の「ツバトーク」の様子

#### <成果>

- ・フレッシュ先生の「困り感」を基にしたことで、参加者が必要感を持って研修を行うことができた。
- ・若手教員だけでなく、参加者がお互いに学び合える場となった。
- ・ベテランの教員にとっては、自分の経験を役立てることができ有用感につながった。
- ・研修時間に話したことが、その後の日常的な会話の糸口にもなった。
- ・休憩時間のフリー参加としたことで、研修時間の確保は容易であった。

#### <課題>

- ・休憩時間のフリー参加としたことで、逆に参加が難しい場合も多く、フレッシュ先生以外の参加が少なかった。
- ・困り感だけにスポットを当てるのではなく、今後は「楽しい・良かったと感じること」を持ち寄る会や、ICTの使い方を学び合う会なども開いてほしいと希望が出された。

#### [実践報告2] 「若手教員の研修意欲を高めるための取組」において、実践した事例

・「校内研修振り返りシート」による目標設定と振り返り

7月と10月に、フレッシュ先生1～4年次(5名)を対象に「校内研修振り返りシート」を記入する時間を取った。

全体として、経験年数が多いほど肯定的な評価が多く、経験が浅いほど評価が低い項目が多かった。

